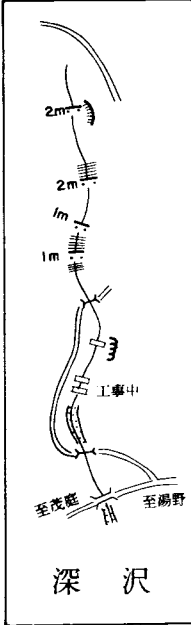


# 深 沢

一九八三年九月一七日

国道三九九号線にかかる橋の所からいったん沢に降りてみた。水はこのあたりではコンクリートで固められた人工の流路を流れ下るようにになっている。この階段状に固められた人工の流路というやつは、遡ろうという者にとって、大変な障害の連続する所である。堰堤の高さは二メートルと少々あるので、左右の石垣に充分なスタンスが得られないと、とてもじやないが越えられないのである。それでも三つほどの堰堤を越えてみたが、諦めて、沢ぞ



いにのびる林道をたどり、三つ目の砂防ダムを越えた所で再び沢に戻る。一〇時一〇分、林道の橋をくぐる。しばらくすると、ナメが出てきた。はじめから、この沢はダメだろうと思っけていても、やはり何か変化あるものが出てくるのではないかと、いつもあわい期待をいだいて登っているものである。この沢も、ここでナメが出てきたことで、「もしや」と勇

みだったが、あとが続かなかった。一時三五分、小滝二つを直登した所で水は濁れてしまった。そこから少し登ると、農道に出たので、遡行終了とする。一〇時四五分。

(記・)

「タイム」 出合(九:五〇) ↓ 遡行終  
了(一〇:四五)



赤川不動滝